

放送番組審議会議事録

燕三条エフエム放送株式会社

1、開催年月日 平成 26 年 11 月 26 日(水)

2、開催場所 燕三条エフエム放送株式会社

3、委員の出席

・委員総数 8 名

・出席委員数 5 名

・出席委員の氏名 . . . 時田 康弘委員長、瀬戸 明委員、遠藤 愛子委員、
田邊とも子委員 (代理野崎みち子)、市島 清貴委員

・欠席委員の氏名 . . . 吉田 文彦委員、久住とも子委員、五十嵐嘉一委員、

・放送事業者側出席者 . . . 阿部 傳取締役、本間取締役、馬場本部長、

4、委員長挨拶 時田委員長

早いもので、今日が今年最後の審議会です。来週には 12 月になり皆さん忙しくなられると思いますが、体に気を付けてお過ごし下さい。

今回も委員の皆さん忌憚のないご意見宜しくお願い致します。

5、事業者側経過報告 阿部取締役

4月に燕市交通公園に移転して、初めての冬が訪れようとしています。昨年の今頃は移転の計画や手続きで大変忙しくしており、移転後も様々なイベントの企画運営に携わり、番組の精査に時間をなかなか取ることができませんでしたが、今回の審議会で弊社のメイン番組の「燕三条系さとちん電波」をご審議頂き、精査を進めて行きたいと思っております。審議委員の皆様よろしくお願ひ致します。

6、議題内容

- (1) 「燕三条系さとちん電波」について
- (2) 次回の番組審議委員会の日程について

7、議事内容

時田委員長：それでは、「燕三条系さとちん電波」の審議を始めたいと思います事業者の説明をお願いします。

馬場本部長：平成24年4月から平日の午前9時から11時半まで放送している、弊社のメイン番組です。連日20名を越えるリスナーが視聴においてになりリクエストメッセージも40通を越える人気番組です。昨日のオープニングからのフリートークを15分ほどお聞き頂きその後ご審議お願い致します。

～試聴～

時田委員長：さとちん電波の冒頭部分聞いて頂きましたが、事業者側は、今後も続けていきたいとの事ですが、審議委員会でもう一度見直したいと思います。それでは皆さんご意見よろしくお願い致します。

瀬戸 委員：この番組とは異なりますが、先日燕商工会議所の大沢専務理事を番組にお招き頂きありがとうございました。昨日はアンケートの取りまとめのため外出しており、その車中でさとちん電波を聞いていました。燕市内の事業所を回っていても、多くの方々から反響をお聞きします。多数は面白い番組だというお話ですが、一部マンネリ化して以前のようなビールに例えるとキレがなくなったとの声を聞きます。私も同様に感じていますので、メリハリを付け地域に密着した番組構成を行って欲しいです。

時田委員長：毎週5日放送するので、そういう所は気を付けて放送して欲しいです。

阿部取締役：放送スタッフには、連日スタジオにお出でになるリスナーの過度の要望には答えないでラジオで聞いている多くのリスナーを考えて放送するように指示したり、先ほど言われましたマンネリ化には注意するように話し合っていますが、気を付けて行きたいと思います。

時田委員長：JRのダイヤ改正の時は、10人が10人全員いいと言うのは不可能なので6人がいいと言ってもらえる物にしていきますが、放送局のスタンスはどうなんでしょうか？

馬場本部長：10人全員がいいと言って貰える番組を目指しておりますが、現実には無理なので実際は他局の放送にチャンネルを変えられる場合が多いです。

市島 委員：さとちん電波を聞いてもらうターゲットは決めて放送しているのですか？決

めているなら教えて下さい。

阿部取締役：3年前 FM にいがたの中野社長に聴衆率を上げるにはどんな番組を放送して行けばいいのかご意見を、伺いに行きましたが、その時 FM にいがたなどの県域放送は、この時間帯に演歌を全面に出した番組を行うことができないので演歌に特化した番組で高齢者をターゲットにしたらどうかとご示唆を頂いたので、50代以上の方です。

遠藤 委員：さとちんの相手のアシスタント役の方が方言で話す事には親近感が湧いてきて良い事だと思いますが、語尾に～さ、～さ、が多くそこは、注意して欲しいですが、日頃の放送も聞きますが内容は面白いです。

瀬戸 委員：さとちん電波を中心としての番組構成で多くの市民の皆さんに燕三条エフエムが認知された事は事実なんです、認知が広まればアンチも出るのは致し方ないと思います。

時田委員長：今回試聴したものは長野北部地震の後だったせいか、災害時でのことを多く話していましたが、さとちんさんは、ニュースとかは読まれるのですか？

馬場本部長：ニュースや災害時には、放送はさせていません。

野崎 代理：他のアシスタントの時も面白いのですが、今回の試聴したお菊さんは、返しのタイミングがよくいいと思います。平日は仕事なのでさとちん電波は聞くことができませんが、友人が録音してほかの時間にさとちん電波を聞いて毎日笑いながら癒されていると、言っていました、その感じが良くわかりました。これからも笑いを届けて欲しいです。

市島 委員：地元の訛りや方言で放送する事は、勇気がいる事ですが、地元の情報を多く発信して、燕三条色をアピールしていったらリスナーの指示は多くなると思うので続けて行って欲しいです。

時田委員長：地元の話題をどんどん情報発信すれば親近感が増えて、ファンが多くなっていくと思います。

遠藤 委員：なまった中でもある程度聞きやすい放送を心がけて欲しいです。

本間取締役：慣れには注意していますが、毎日放送していると気づかないうちにリスナーから嫌われ、離れて行くことが多いので、委員の皆さんの意見を参考に番組を行って行きたいと思います。

野崎 代理：番組内容とは、違いますが、災害での対応を求められているのに、難聴地域が多くあると感じられます。難聴を解消するのに、なにか有効な手立てはないのですか？

馬場本部長：最大出力が20Wのコミュニティ放送は、FM にいがた等の県域放送と比べられると出力の差が大きいので比較になりませんが、FM しばたさんが高額な設備を導入して難聴地域解消を行っていますので、参考にして、弊社単独では資金が足りませんので、行政に提案して行きたいと思います。

時田委員長：それでは、(2) 次回の審議委員会の日程について決めたいと思います。

馬場本部長：平成 27 年 1 月 28 日(水)午後 1 時 30 分からは如何でしょうか。

時田委員長：それでは平成 27 年 1 月 28 日午後 1 時 30 分開始で行います。

今回も皆さん慎重審議ありがとうございました。

8、審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその措置年月日

特になし

9、審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表内容方法及び年月日

書類のエントレンスホールへの備置き

web サイト上に記載

10、その他、参考となる事項

特になし